

第6章 北に灯った光を永遠に〜輝かしい現在を未来へ継続〜

第1節 新たなまちづくりがスタート

2019年5月1日、元号が「平成」から「令和」へと変わった。新しい時代の幕開けである。令和元年（2019年）は、分村から100年目、翌2年（2020年）は開町100周年を迎えた。人口減少など多くの課題に立ち向かっていく新しいまちづくりがスタートしたのである。

■まちづくり推進会議

平成23年（2011年）から町民の意見などをまちづくりに反映させる「まちづくり推進会議」が組織されていたが、同31年（2019年）3月に、町民が主体的にまちづくりに参加できる仕組みとして「まちづくり町民参加条例」が施行され、令和元年7月にはまちづくり推進会議条例に基づいた新しい「まちづくり推進会議」が立ち上がった。

まちづくり推進会議では、条例の制定、各種計画策定や公共施設建設、町民からの要望や提案などを協議し、まちづくりに参画している。

「令和のまちづくり」には行財政改革も重要である。同2年2月に町行政改革推進委員会が設置され、町民の視点で幅広い意見を取り入れ、同3年度（2021年度）スタートの7年間の第5次町行政改革大綱を策定している。

■定住自立圏形成協定を締結

地方において、まちづくりを進めるに当たり大きな壁となつてくる人口減少と少子高齢化。国は、こうした状況を踏まえ、市町村が主体的に取り組み、相互に役割を分担し、連携・協力することで安心して暮らせる地域を各地に形成、定住を図る取り組みとして「定住自立圏構想」を打ち出した。

本町を含め北見市、美幌町、津別町、置戸町の1市4町は、令和元年（2019年）10月18日に「北見地域定住自立圏形成協定」を締結した。圏域を形成する市町それぞれの独自性を尊重しながら、1市4町が連携して都市機能および生活機能を確保し、安心して暮らせる定住自立圏の形成をめざしている。

■出鼻くじいた新型コロナウイルス 戸惑いの新しい生活様式

開町100周年を迎えた令和2年（2020年）、4月からさまざまな記念事業が始まる予定だった。しかし、同元年（2019年）の12月に中国で確認された「新型コロナウイルス感染症」が、同2年1月に日本でも確認され、その後、道内でも発生、オホーツク管内では、2月に隣の北見市でクラスター（集団）感染が発生し、以後、全国にまん延した。

町は、同2年2月28日に「感染症危機管理対策本部」を設置し、町民に対しうがい、手洗いの励行など感染防止を呼び掛けたほか、公共施設を臨時休館とし、小中学校も臨時休校となった。さらに新型インフルエンザ等対策特別措置法の施行に伴い、町は「新型コロナウイルス感染症特別対策本部」を設置、それまで以上に感染拡大防止に向け、住民周知、マスク、

消毒液などの備蓄確保等の対策を行った。

その後も全国的に感染拡大が続き、国は4月17日に緊急事態宣言を発令するとともにクラスタ―感染が目立つ北海道などを「特別警戒都道府県」に指定したことから、町は再開していた公共施設の休館措置をとったほか、小中学校も再び休校、6月上旬には町民1人当たり10枚のマスク（総数約5万枚）を職員が配布するなど、国とともに各種支援を行った。

こうした動きの中で、開町100周年を祝う記念事業は、4月開催予定だったNHK公開録音「真打競演」をはじめ、6月開催予定の「町民オリンピック」などが中止を余儀なくされた。

北海道では、夏期間は感染拡大の状況もやや落ち着いていた感があったが、10月に入ると再び増え始め、11月には1日の感染者数が過去最高を連日更新するほどの勢いで感染が拡大し、12月末現在、まだ収束は見えない。

※新型コロナウイルス感染症⇨発熱やのどの痛み、咳が1週間前後続き、強いだるさを訴える人もいる。感染者のくしゃみや咳などと一緒に放出されたウイルスを口や鼻などから吸い込んで感染する「飛沫感染」と感染者の口などから出たウイルスが付着した物に触れたあと、さまざまな形で口などから吸い込んで感染する「接触感染」がある。北海道では、道民に対し「新北海道スタイル」として「密閉」「密接」「密集」の「3密」を避けることや咳エチケット、手洗いの励行などを訴えている。

第2節 開町150周年、そして200周年へ

■消防庁舎移転新築へ

建設後52年が経過する北見地区消防組合消防署訓子府支署・消防団の庁舎が、移転新築する。

昭和43年（1968年）に現在地（元町）に建設された庁舎は、施設の老朽化、消防車両規格の大型化により狭あい化していた。建設に大きな課題となっていた財源問題も確保できなかったことから、東幸町の銀河公園東側への移転新築に踏み出したのである。

訓子府消防庁舎の建設に向けて、設計業者を選定するため、道内の6社に提案書の作成を依頼し、設計プロポーザルを実施。町内各界からの35人の評価委員による評価などを経て設業者が決定、実施設計が行われた。令和3年（2021年）3月に着工し、同4年（2022年）秋の完成をめざす。

■光ファイバー網整備とGIGA（ギガ）スクール構想実現へ

光ファイバー網は、平成23年（2011年）に町内市街地と一部実践会地域で利用開始となっていたが、情報通信の地域間格差を是正するため、町内の光ファイバー網未整備地域に令和2年度（2020年度）から整備している。

この整備により、町内全域に超高速インターネットアクセスが可能な環境となるほか、新型コロナウイルス感染症に伴う新しい生活様式の一つ「テレワーク」（パソコン通信を活用し在宅など会社と離れた場所で勤務すること）や「スマート農業」（ロボット技術やICT

Ⅱ情報通信技術Ⅱを活用して省力化、精密化や高品質生産を実現する新たな農業」の実現も可能となる。令和4年（2022年）3月までに整備完了の予定である。

また、教育現場ではICT環境の整備を図るために、国の「GIGA（ギガ）スクール構想」の実現に向けて、町内の小中学校の子どもたちに1人1台のパソコン端末と高速大容量の通信ネットワークを一体的に整備する。

■開町100周年・町制施行70年記念式典挙行

令和2年（2020年）5月8日、例年と違った形で「開拓記念日のつどい」が行われた。「コロナ対策」として「3密」を避けるため、出席者は少人数とし、全員マスクを着用するなど感染予防策を講じて実施したのである。

開町100周年の各種記念事業が中止あるいは縮小という形となったが、「開町100周年・町制施行70年」の記念式典も出席者を最小限に抑え、会場内は椅子の間隔を通常より広げて配置する「ソーシャルディスタンス」とするなど感染防止対策をとった中で、11月1日町公民館で行った。祝賀会は中止。式典には、町内外から約100人が出席し、「クンネツプ原野」から「訓子府」の1自治体となった100年前を振り返り、記念の節目を祝い、次のステップへ踏み出した。

式典の冒頭、開町100周年・町制施行70年記念歌「訓子府よ永久とわに」が披露された。作詞は訓子府町出身の松岡義和さん、作曲は訓子府中学校前校長の小野朋之さんで、音楽家の北畑恵さん（いずれも北見市在住）が歌い上げ、式典に花を添えた。

また、前日の10月31日には、開基100年の平成8年（1996年）11月1日に埋設した2基のタイムカプセルのうち24年後開封となっていたタイムカプセルを掘り出した。カプセル内に手紙などを納めた人も参加した中で開封し、四半世紀の訓子府の移り変わりを感ずったのであった。



開町100周年・町制施行70年記念式典の席上行われた功労者等の表彰式



式典前日に行われたタイムカプセル開封式。開拓100年の24年前から現在、そして未来へのメッセージなどが納められていた

とわ
訓子府よ永久に

作詞 松岡義和

作曲 小野朋之

♩=75

な が い ふ ゆ の ね む り か ら さ め - -

や ま は め ぶ く ふ る さ と の は る あ

り が と う ゆ た か な し ぜ ん

く ん ね っ ぶ を ほ こ り に

<p>四 粉雪<small>ともしひ</small>舞い散る 灯火<small>ともしひ</small>またたく ありがとう 訓子府よ</p>	<p>三 山の紅葉<small>もみじ</small> 田畑<small>いり</small>うるおす ありがとう 訓子府よ</p>	<p>二 青空の下 川は流れる ありがとう 訓子府よ</p>	<p>一 長い冬の 山は芽吹く ありがとう 訓子府よ</p>	<p>訓子府よ永久に</p>
<p>夕暮れ<small>ゆふぐれ</small>の時に ふるさとの冬 人々のきずな 永久<small>とわ</small>に</p>	<p>色美しく ふるさとの秋 くらし営<small>い</small>む 明るく</p>	<p>沃野<small>よくや</small>をかけて ふるさとの夏 緑の大地 豊かに</p>	<p>眠りからさめ ふるさとの春 豊かな自然 誇りに</p>	<p>作詞 松岡義和 作曲 小野朋之</p>

第3節 次代を担う児童・生徒、若者が願う未来は

■インタビュー

開拓から124年、分村から100年が経過した訓子府町の未来は。次代を担う児童・生徒、若い人に、未来の訓子府について聞いた。

□訓子府小学校 令和2年度全校仲よし会会長

○荒沢宗汰さん（6年 栄町）



町民の人みんなが、親戚みたいに、とても優しいことが、訓子府の良いところだと思う。人の心が温かく、自然も豊かで、昔からの自然が多く残っている。

こんな訓子府が、自分が大人になっても変わらないでいてほしい。自然が豊かでみんなが優しい心をもった町が、ずっと続いてほしい。

□居武士小学校 令和2年度後期児童会会長

○石神幸誠さん（5年 日出）

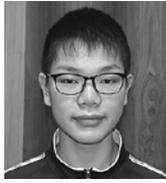


訓子府の好きなどころ、良いところは、みんながごみ拾いなどをして町がきれいなところ。レクリエーション公園など自然がいっぱいある公園もあり、楽しく遊ぶことができる。

僕が大人になっても、今の自然や動物が保護されたままでいてほしい。畑もいっぱいあって、農業も今のまま盛んであってほしい。

□訓子府中学校 令和2年度後期・令和3年度前期生徒会会長

○梶田駿介さん（2年 弥生）



訓子府の人たちは、みんな優しい。歩いていて声を掛けてくれるなど、とても温かい町だと思う。自然もたくさんあり、とても住みやすい町。

こんなに良い町は、このままであってほしい。自然もそのまま。木や緑があるととても落ち着く。自分の家は酪農業だが、農業も含め未来も盛んなままであってほしい。

□訓子府高校令和2年度後期・令和3年度前期生徒会副会長

○後藤小春さん（1年 東幸町）



訓子府は、街並みがきれいに整備され、程よく自然もあり、良い町だなと思う。それと、子どもたちが元気で、とても礼儀正しい。教育環境も良い。今は、人口減少、特に子どもたちの数が減ってきていると聞いている。将来、子どもの数が増えることを期待したい。子育てしやすい町を継続し、もちろん自然も残し、「良い町」のまま将来も維持してほしい。

□令和2年新成人

○小野知紀さん（実郷）



家業の農業を手伝っており、のちのち後を継ごうと考えている。町内には、他にもそういう若い仲間がおり、訓子府の農業を守ろうという意識が他市町村より高いと思う。こうした意識が20年後、30年後も続いている町であってほしいし、人口は減っても訓子府の農業を後退させない、現状を維持したい。子育てしやすい町でもあり、将来も変わらないでほしい。

□令和2年新成人

○南部穂風さん（東幸町）



20年間訓子府に住んでいて、街並みがきれいで、ごみも落ちていないし、冬季も除排雪が行き届いていると感じている。郊外も自然が豊か。住んでいる人の優しさ、温かさを感じる。

これから20年、30年たっても、こんな訓子府が維持されて、活気が残っている町であってほしい。



